

回覧

交通

第27号

すいしんたい

発行・金沢市街頭交通推進隊

毎日の活動に感謝をこめて



金沢地区交通安全協会連絡協議会会長

宮岸 武司

雨の日も風の日も、猛暑の日も極寒の日も、地域の交通安全を願っての街頭活動をはじめ、大規模なイベントから地域の祭礼に至るまで安全確保のためにご尽力いただいている事に対して、深く感謝を申し上げます。

金沢市街頭交通推進隊は、自動車交通の



急成長により交通事故の死者数が増加し始めた昭和43年に発足されました。今年で57年間の長きにわたり活動が継続され、直接街頭においてドライバーや歩行者に安全指導をされることで、地域のコミュニティや防犯活動にも寄与されていることについても心から敬意を表するものであります。

近年、交通事故件数や死者数は昔から比べると減少傾向にあり、交通環境も大きく変わりましたが、依然として尊い命が失われていることに変わりはありません。

交通安全運動における最近のキーワードを、三つ上げるとすれば、飲酒運転根絶、歩行者優先、自転車の交通ルールです。これを皆でしっかりと意識して運転すれば悲惨な交通事故はもっと減るはず。

令和7年9月の秋の全国交通安全運動期間中には、私の勤務する北陸鉄道の乗合バス110両（石川県内）が回送中に、回送表示に加えて前面方向幕に「交通安全運動実施中」、側面と後方に「飲酒運転根絶」、「歩行者優先」を表示しました。微力ではありますが、事故ゼロに向けてできることは実行していきたいと考えています。

もう一つ、私が日々気になるのが速すぎ

る車が多いことです。街頭へ出られる推進隊の皆さまも感じると思いますが、私も運転をして山側環状を走行する時、通勤時にバス停でバスを待つ間など、法定速度を上回るような速い速度での運転をよく見かけます。そんな時は、「せまい日本 そんなに急いで どこへ行く」私の世代なら知る懐かしい標語を思い出します。子供・高齢者はもちろん、すべての人を守るために、まずはゆっくり走りましょう。機会あるごとにみんなで伝えていきたいものです。



事故防止 ルールとマナーとおもいやり

事故のない街づくりを



金沢中街頭交通推進隊 隊長

東 良 光

金 沢 中 隊 だ よ り

この度、金沢中街頭交通推進隊・隊長に任命されました。管内の中で、交通事故を無くして明るい街・住みやすい街作りを目指しています。その一つとして、暁町交番連絡委員になり、街のこと全体を知りつくすことだと思われました。年一回の会合ですが、各委員が日常生活の中で交通事故につながるための意見や要望などを出し、話し合い、審議を行い解決等に導いています。この地域に住んでいる人ではないと分からない事なども含まれ、有意義な時間です。

二つ目は、材木・味噌蔵歩ける街作り推進委員に特別参加させて頂いています。街の人々が安心して歩ける街・住み良い生活環境作りを目指しています。金

家族のヒーロー、みんなのヒーロー



金沢中街頭交通推進隊 伏見台支隊長

太 田 拓 志

私市は生まれも育ちも、伏見台校下です。夏祭りも、学校行事も、校下で行われるイベントは、子どもの頃から参加していました。特に移動手段は、当時は自転車、夏祭りに参加する時も会場まで自転車で行ったものです。その際に、推進隊の方々から「気をつけておうちまで帰るんだよ。」と声を掛けられたものでした。子ども頃の私は、何も気に掛けることはありませんでした。今こうして推進隊の活動に携わるようになって、こうした声掛けは安心安全な街づくりには、とても重要なんだと実感しています。

私には、小学4年の娘と、小学2年の息子がいます。2人とも、私が当時通った伏見台小学校ですが、こうして親子でお世話になっているというのも感慨深いものがあります。

私は生まれも育ちも、伏見台校下です。夏祭りも、学校行事も、校下で行われるイベントは、子どもの頃から参加していました。特に移動手段は、当時は自転車、夏祭りに参加する時も会場まで自転車で行ったものです。その際に、推進隊の方々から「気をつけておうちまで帰るんだよ。」と声を掛けられたものでした。子ども頃の私は、何も気に掛けることはありませんでした。今こうして推進隊の活動に携わるようになって、こうした声掛けは安心安全な街づくりには、とても重要なんだと実感しています。

今年の3月上旬には、小学校から地域のお世話になっっている方々に対しての感謝の集いがあり、私も招待していただきました。会場の体育館では、全校児童が集まり、私たちに歌を披露してくださいました。最後にはメッセージを添えたカイロをいただきました。そこには、いつもありがとうございます、と記されています。こうして感謝されるといふのは、普段なかなかないことですし、私自身推進隊をやり続けて良かったなと思えました。

子どもたちに、その日の事を伝えた時のことですが、パパ会場に居たね。手を振ったの分かった？と言われました。続けて、娘が、家族のヒーローで、みんなのヒーローだねと言ってくれました。

その瞬間、込み上げてくるものがありました。私自

身が推進隊をしようと思っただけですが、子どもたちのため、地域のため、みんなのために、何かできないかと思っていて、私の以前の会社でお世話になった、現在も毎日小学校の横断歩道で活動している、米村隊員に推進隊をやってみないか、と声を掛けていただいた事です。

ちょうど娘も小学校入学のタイミングで、私自身、これまで子どもの頃から、伏見台校下のみなさまに大変お世話になって、こうして成長させてもらえたので、今度は私の番だと思い、推

進隊に入隊したものでした。地域のみなさんと力を合わせて、子どもたちの安心安全を守ること、地域の活動を通じてコミュニケーションを図り、安心安全な街づくりを築いていくこと、金沢百万石まつりや金沢マラソンのように、金沢市全体で一体感を高めて、魅力のある都市とし、内外に発信していくことの重要性を考え、これからも推進隊として活動していきたいと思えます。また、警察の方々とも連携して、地域を守っていききたいと思います。

人の振り見て我が振り直せ



金沢中街頭交通推進隊 十一屋支隊長

坂 本 泰 広

私が交通推進隊に「入隊」してからいぶん年月が経ちました。私を勧誘したのは、すでに故人となった田島秀男さんだった。田島さんは、ほぼ毎朝ご自宅前の横断歩道に立ち、登校する小中学生だけではなく、バ

ス停で下車をする高校生や大人まで全てを見守っていた人だった。私が十一屋小学校の保護者だった時からお世話になっていた人である。そんな田島さんから「坂本さん。あんた議員になつたんやから地域に役立つこ

とせんとね。交通推進隊の支隊長せんか？」と声を掛けられました。「いきなり支隊長ですか(汗)」そんなようなやりとりをしたことを覚えています。私は元来「断れない性分」であったため、「私でよければ」とお引き受けをしました。

ここで少し余談。私は市議会議員になる前まで陸上自衛官として約二十五年間勤務してきました。制服を着て仕事をすることが普通でしたから、交通推進隊の制服を着て街頭に立つと、

とても気持ち引き締まります。ちなみに制服を着る以上、普通の服装以上に着こなしが大切です。帽子のツバが目線にくるように深く被り、シャツとズボンのファスナー、そしてベルトのバックルが一直線になるように。帯革は真横から見た時に地面と水平になるように締める、などである。

これだけでもまず通行人から見た時の印象が違いますし、何より自分自身の気持ち引き締まります。隊員の皆さんは是非お試しあれ。さて話を戻します。私が交通推進隊員になって感じたことは、自分自身が自動

車を運転したり、自転車に乗ったり、そして歩行者として道路をどうやって通行していたかということ、客観的に感じさせられたということでした。これは非常に重要なことだと思えます。まさに「人の振り見て我が振り直せ」です。交通の流れを意識し、自己本位ではなく、他者との関係をしつかり考えて行動するところが、交通安全につながると思います。

地域への恩返しの意味も込めて、田島さんに繋いでいただいたご縁を大切に、今後も微力ながらこの活動を続けていきたいと思えます。



心と心のキャッチボール



金沢東街頭交通推進隊 長田支隊長

松嶋 伸直

私は、街頭交通推進隊員として、昭和60年に委嘱を受け今に至ります。主に元菊町交差点に毎日立っております。

金沢東隊だよ

最初の頃は先輩隊員の指導を受け、2、3年後には、指導を受けることなく一人で立っております。しかし、自分の心の中に、「かかし」の様に立っているだけで、自分の活動が本当に意味があるのかと思うようになりました。

そんなある日、新学期が始まった4月ころ、一年生ぐらいの女の子が、「おはよう、いつもありがとう。」と歩み寄って声をかけてくれました。私は、ハツとして思わず、「おはよう、いつてらっしゃい。」と返しました。

うれしかった…。「かかし」のような自分、街頭交通推進隊の活動が、一人の女の子に認められた瞬間でした。心と心のキャッチボールが出来たなと心が満たされました。

そのことが自分のマインドとなり、これまでの私の活動の力になっていると思えます。

また、数年前、白杖を持った視覚障害者の方が信号待ちをしていました。

少し困った様子だったのですが、私は声かけもできず、全く支援してあげることができなくて、ずっと後悔していました。

その後、県の視覚障害者のための同行支援講習を受講して、少しは対応できるかなと思うようになりました。

公道においては、「安全第一」と思いますが、障害者の方々のプライドを傷つ

けずに導いていきたいと思えます。

さて、北陸新幹線開業後、金沢駅付近も徐々に様変わりしてきました。長田校下も例外ではありません。朝、街頭指導に立つと10台くらいの自転車に乗った外国人の女性達に出会います。「おはよう」と声をかけると、皆、笑顔で「おはよう」と返してくれますし、信号を

自分ができること



金沢東街頭交通推進隊 馬場支隊長

田中 健二

私が街頭交通推進隊に入隊して12年になります。入隊当時は5名いた隊員も、今では2名になってしまいました。

そんな中でも小学校の登校時の交通安全指導は毎日、横断歩道での子供達の見守りを行っています。

「夏は暑く、冬は寒い」そんな中でも毎朝、子供達の元気で明るい声が響き渡り、最後まで見送る一日が始まります。

しっかり守り、とても礼儀正しいです。

通勤の外国人が日本人と一緒に歩く姿や小学校まで送る父親達もずいぶん増えたように思います。

街頭交通推進隊の活動を通じて、自分自身も少しずつ成長できたかと思えます。関係の皆様方に感謝申し上げる次第であります。

また、朝の通勤時間は交通量が多く、交差点手前にはバス停があり、朝の時間帯はバスレーンがあります。交差点の信号が変わってもそのまま通り過ぎる車も少なくありません。

交通渋滞で交差点内で車が止まっていて、街頭交通推進隊である私が制服を着て立っていても何食わぬ顔をしています。とは言っても、いつ事故が起きてもおかしくないそんな時は、兎

童を一旦止めて、安全を確認してから児童を横断させています。

自転車のマナーが悪く、自転車走行指導帯があるにもかかわらず、狭い歩道を走行し、イヤホンをしており、こちらが注意しても知らん顔をしていてとても危ない状況です。

自転車の事故は、たまに見かけます。開校153年続いた馬場小学校が明成小学校と合併

となり、学校までの道のりが遠くなりました。走る児童には「走ったら危ないですよ」と注意を、横断歩道では必ず一旦立ち止まり、周囲を確認することを教えています。

通学路と車



金沢東街頭交通推進隊

諸江支隊長を拝命し2年が経過しました。

8名の隊員とともに街頭指導を行い、定期的に北安江交差点において、赤ランプ点滅作戦を実施し、地域の皆様と協力しながら交通事故防止に努めています。

諸江校下は、駅西・北安江から8号線を挟み、割出・問屋、そして、浅野川沿岸の街並みに長くのびています。

先日、ドライバーより、「毎朝、横断歩道で車を止める時間が長すぎて車が進まない。」という相談が小学校に入りました。そこは、小学校近くの信号機のない子供達が多く通る横断歩道でした。朝の通勤時間のため、交通量が多い場所でもあります。

その対策のため、今まで一人体制で見守りを行っていたところ、一日おきに二人体制に変更し、子供達には、車が通過する間、待ってもらおうようにしました。その後は、車の渋滞は少なくなり、ドライバーは、頭を下げて通って行かれます。ドライバーがイライラすると、交通事故にもつながりかねないため、変更して良かったと思っております。

諸江支隊長

越村 義信

諸江町小学校は、松寺区域の子供達も通学しており、朝7時には家を出る子供もいるそうです。多くの通学路は道路幅が狭く、車が一台やっと通れる道が続いているところがあります。道路には、横断歩道や学童注意の表示がなく、朝の見守り時は、特に気を付けて横断旗を振り、注意を促しています。

大人の背中



金沢西街頭交通推進隊

新神田支隊副支隊長

奥村 彰敏

私の人生で最初に交通推進隊の方と出会ったのは、小学生の時に遡ります。

私達が育った松ヶ枝校下には「制服おじさん」という方が、横断歩道で毎日立っていて下さいました。

金沢西隊だより

その後、小学校を卒業してから、その方が交通推進隊員であったことを知りました。

雨の日も風の日も、朗らかに笑って、敬礼して下さったその姿。

幼い心に交通推進隊への憧憬が芽生えました。

金沢市以外での生活が続き、四十代は全国を水害地支援で駆け回り、五十代になり家業を手伝い、金沢に腰を落ち着けた時、再びあの憧れが戻ってきました。交通推進隊に入隊を許さ

れ、交通安全の現場に立つた時、私たちの子供の頃と比べ、遥かに危険な状況になっていくことに気がきました。

車両の増大は勿論、大型化も顕著になり、ドライバーの多様化、高齢化も進んできています。

道路幅や歩道の整備、信号機の増設なども推進されていますが、金沢という町の広がりには追いつけていない現状があります。

その現状の中で、交通弱者と言えるお子さんたちや年配の方々を守っていく担い手になりたい、その一念からの入隊でもありました。

そして、新神田支隊の温かく優しい先輩方との出会い、私の人生の宝にもなりつつあります。

特に私の入隊時の隊長だった方。グランドゴルフ大会・大豆田花火大会・交通安全出

発式・金沢マラソン警備・年度総会様々な場所にお連れ下さり、兄のように慕っておりました。

そんな方が、とある冬の日、突然亡くなりました。呆然としました。

そんな時、新神田小学校の卒業式。

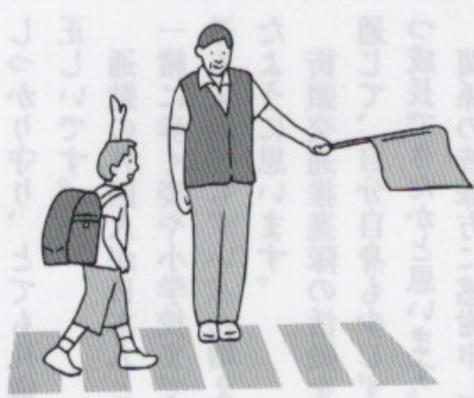
「隊長さん、いつも守ってくれてありがとう」の金メダル。

代わりに受け取らせて頂きました。

糸田新町の交差点でいつも朗らかに毎朝立っていた元隊長。

あの笑顔と広い背中、この姿勢と想いを文化として、次世代に繋げたい。

私は、この想いを胸に、これからも交通安全の一助になれるよう精進して参ります。



子どもたちを安心して送り出せるまちを



金沢西街頭交通推進隊
西南部支隊長
清水 誠一

三児の父である私は、これまで毎朝、子どもたちを学校へ送り出すたびに、交通推進隊や地域の見守り隊の方々に支えられてきました。

特に長男が小学校へ通い始めた頃は、初めての登校ということもあり、毎日が心配で落ち着きませんでした。車の往来が激しい交差点や歩道の狭い通学路を一人で歩かせることに不安を感じ、玄関先で何度も後ろ姿を見送りながら「無事に学校へ着きますように」と願ったものです。

そんな不安を和らげてくれたのが、通学路に立ってくださる交通推進隊や見守り隊の方々の存在でした。雨の日も風の日も、いつも変わらず子どもたちにも「おはよう！」と声をかけてくださる姿を見ると、胸が温かくなると同時に、地域全体で子どもたちを見守ってくれているという心

強さを感じました。

おかげで子どもたちも安心して学校に通うことができ、親として大きな感謝の気持ちでいっぱいです。

我が子が大きくなり、手が届かなくなると、「今度度は自分が支える側に回り地域に貢献したい」という気持ち芽生え、交通推進隊への参加を決意しました。実際に活動を始めると、

登校する子どもたちが元気に挨拶してくれる姿に励まされ、自分自身も地域の一員としての責任を強く実感しています。

中には恥ずかしそうに会釈だけする子もいますが、それもまた微笑ましく、地域とのつながりを感じる瞬間です。

今では、活動を通じて多くの方々との顔なじみになり、「おはようございます」と交わす挨拶が一日の活力になっています。交通安全は決して一人の

力で守れるものではなく、地域の皆様が互いに声をかけ合い、支え合うことで初めて実現できるものだと感じます。これからも、かつて私が

感じた安心を次の世代へ引き継ぐため、事故ゼロを目指し、地域の皆様と力を合わせて安全で笑顔あふれるまちづくりに努めてまいります。

地域と共に守る交通安全



金沢西街頭交通推進隊
戸板支隊副支隊長

吉田 政利

私は、金沢西街頭交通推進隊戸板支隊で副支隊長を務めております、吉田政利と申します。

平成八年に入隊して以来、二十年以上にわたり地域の交通安全活動に取り組んでまいりました。

職業は交通警備員であり、日々の業務を通じて道路の危険や事故の恐ろしさを感じております。

私がこの活動に志願したのは、何よりも子供達を交

通学路に立ち、登下校する子供達の姿を見るたびに、事故のない安心な地域を築きたいという気持ちが

一層高まります。

戸板校区の通学路は広範囲にわたっており、すべての安全を見守ることは容易ではありません。

さらに近年、戸板地区では人口が増加し、それに伴って交通量も年々多くなっています。

その結果、交差点や通学路周辺では危険が増し、地域の大きな課題となっています。

こうした状況の中で、私たちの活動だけでは限界があります。

交通安全を守るためには、地域の皆さんが力を合わせ、家庭・学校・自治会が一体となって取り組むこ

とが重要です。

運転者には一層の注意を呼びかけ、子供達には交通ルールを守る大切さを伝えていかなければなりません。

交通事故は一瞬の不注意から起こり、尊い命を奪うこともあります。

しかし、地域ぐるみで意識を高め、協力し合うことで未然に防ぐことができる

と私は信じています。これからも副支隊長として、また一人の交通警備員として、私は子供達や地域の安全を守るための活動を続けていくつもりです。



新規隊員募集中！

※但し、入隊には審査があります。



